

赤谷プロジェクト近況報告

JICA国別研修・インド環境森林省



JICA研修生を迎えて

11月9日(月)、JICAの国別研修でインド環境森林省森林保全局、森林教育委員会、森林管理中央学校の研修生が利根沼田森林管理署管内を訪れました。

当日は、利根沼田森林管理署において関東森林管理局の取組や利根沼田署の管内概要を説明した後、「いきもの村」で赤谷プロジェクトの概要や活動内容について、さらには、茂倉沢にある治山工事箇所、ダム中央部撤去の取り組みを説明しました。

研修生からは、インドと日本では

「地域」の捉え方、地方政府の階層や仕組みなどが大きく異なるので、詳細な質疑を求められたほか、官民協働の仕組みや地元と連携した森林環境教育への取り組みについては、非常に関心が高かったところであり

ます。インドの森林には四季の変化がなく緑が焦げ茶色しか存在しないとのことで、茂倉沢の紅葉には感嘆の声があがっていました。

茂倉沢治山事業・現地説明会の開催

11月10日(火)、茂倉沢の治山ダム中央部撤去工事について、報道関係者、県、漁業協同組合等約20名を対象に現地説明会を開催しました。

当日は、関東森林管理局から赤谷プロジェクトや茂倉沢治山事業の概要を説明した後、治山ダムの中央部撤去は溪流の上流と下流の連続性を確保し、自然本来の溪流環境の復元



熱心に説明を聞く出席者



治山ダムの中央部撤去工事等を説明

を目指すものであり、赤谷プロジェクトにおける自然再生の取り組みの一環であることを説明しました。

また、治山ダムが本来持っている土砂の堆砂機能、防災機能についても解説しました。

参加者からは、防災面を考慮して下流に作設する保全工の設置理由などについて活発な質疑が相次ぎました。

今後は溪流環境復元と防災の両立を図るため、魚類等の生息環境への影響や土砂の移動状況などについてモニタリングを進めていく予定です。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

「関東森林管理局国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催

関東森林管理局では、「開かれた国民の森林」の実現に向け、国有林野等の所在する地域の市町村長との意見・情報交換を目的とした会議を毎年開催しています。

本年度は11月20日(金)に東京都霞ヶ関の法曹会館において、各地域の代表市町村長11名参加の基、開催されました。

冒頭、局長から「国民視点に立った管理経営のために、多くのご指摘を頂きたい。」また、林野庁国有林野部長からは、「林業、ひいては地域活性化のため、忌憚のないご意見を頂きたい。」旨の挨拶がありました。

続いて、林野庁・局による事業説明の後、各事業や森林・林業施策等について活発な議論がなされました。

頂いた貴重なご意見を基に、国民視点に立った国有林野の管理経営に努めていきたいと考えています。

(企画調整室)

